

令和7年度オーガニックビレッジ座談会 開催レポート

資料3

Vol. 1



日時：令和7年5月17日（土）10:00～11:30

場所：草の根ハウスまるやま（円山町）

オーガニックビレッジ座談会

有機農業の推進に向けて、生産はもちろん、流通・加工、消費といった観点から、広く意見をいただくため、令和7年2月に「オーガニックビレッジ座談会（仮称）」として第1回目の座談会を開催しました。

今後も座談会の取組を継続していくという意味をこめて、「（仮称）」の文字を削除し、「令和7年度オーガニックビレッジ座談会Vol. 1」と称して今回の座談会を開催しました。

「近江八幡市有機農業実施計画」の概要

みどりの食料システム戦略を踏まえ、有機農業に地域ぐるみで取り組む産地（オーガニックビレッジ）の実現に向け、令和7年3月31日に「近江八幡市有機農業実施計画」を策定しました。

今回の座談会では、有機農業に取り組む意義や計画の期間（5年間）、5年後の目標や取組内容など、実施計画の概要について説明させていただきました。

「近江八幡市有機農業実施計画」については、以下の URL からご覧いただけます。

→ (URL) <https://www.city.omihachiman.lg.jp/soshiki/kikaku/2/organicvillage/30313.html>

話題提供 （滋賀県東近江農業農村振興事務所 山本航平様）

今回、座談会において意見交換をするにあたり、滋賀県東近江農業農村振興事務所の山本航平様に「滋賀県の現状、生産現場の状況」というテーマで話題提供をいただきました。

オーガニックの定義や滋賀県・近江八幡市の有機農業の状況、滋賀県内のオーガニックビレッジへの取組、植物に関わる知識や作業の手間が必要な有機栽培の難しさについてお話しいただきました。



意見交換「生産者（生産現場）視点でのオーガニックについて」

話題提供を受けて、意見交換では「生産者（生産現場）視点でのオーガニックについて」というテーマで意見交換していただきました。有機栽培に取り組んでいる農業者は感じている有機栽培のメリット、デメリットを、これから始めたい方は期待や不安を、それ以外方には、有機農産物やそれを生産する農業者に期待することをお話いただきました。

（多くの意見があったため、抜粋、まとめさせていただいています。）

（有機農業者）メリット

- ・ 土壌が豊かになる、生物多様性の向上、環境循環型農業（次世代の子どもたちのために）
- ・ 農産物がおいしい
- ・ 差別化、付加価値、ブランド化等により選んでもらえる
- ・ 機械トラブル等が少なく、農薬を使用しないため生産者にとって安全性が高い
- ・ 顔の見える農業、規格にとらわれにくい
- ・ 資材の活用ができる
- ・ 昔ながらの農

（有機農業者）デメリット

- ・ 草刈り・病害虫対策など労力がかかる
- ・ 収量が不安定、技術習得に時間がかかる
- ・ 相談するところが少ない
- ・ 消費者の理解が得にくい（価格、見た目）

（これから有機農業を始める方）期待

- ・ 土地や助成金などの支援があれば始めやすい
- ・ 地域ブランドやオーガニック給食の可能性
- ・ 他の農業者や消費者との交流による学び
- ・ 環境保全・未来への責任感を持って取り組みたい
- ・ 有機農業者に対する研修機会があるとよい
- ・ 後継者を育てたい
- ・ 多様な農法や先人の知恵の活用、栽培方法の研究

（これから有機農業を始める方）不安

- ・ 草刈りや病害虫等の労力、農業機械の購入・管理

- ・ 収入面の不安
- ・ JAS 認証取得などの制度的負担
- ・ 失敗時のリスク
- ・ 高価格商品を購入してもらえるか、販路の確保
- ・ 周辺の農業者の理解を得られるか

消費者等

- ・ 環境にやさしい農業の推進、琵琶湖を守る
- ・ 学校給食への導入
- ・ 生産者の顔が見える流通、出口戦略
- ・ 消費者の理解を得る取組（農業体験事業など）、利便性の追求から質の時代へ

オーガニックビレッジ宣言（近江八幡市長より）

オーガニックビレッジ座談会第2部では、近江八幡市長より「オーガニックビレッジ宣言」を行いました。

オーガニックビレッジ座談会開催場所の「草の根ハウスまるやま」が所在する円山町は、水田も含めて重要文化的景観として選定されており、有機農業に取り組む特定区域として市が定めています。

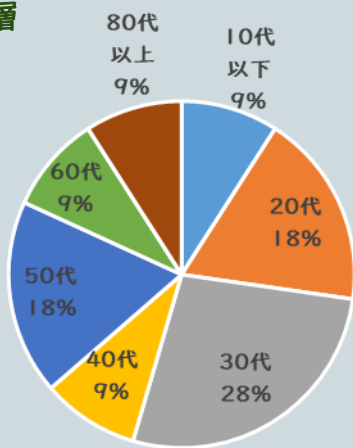
「オーガニックなまちづくり」を進めるため、この座談会を契機として市内全域に有機農業の取組を広げていきます。



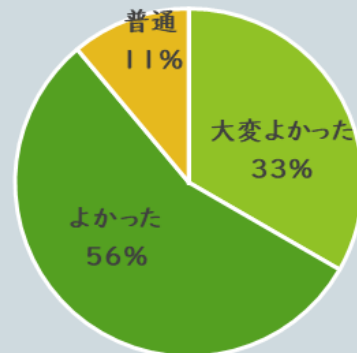
アンケート結果

(回答数 12)

● 年齢層



● 満足度



● 印象に残った内容、感想

- ・参加者のみなさんが真剣にオーガニックに取り組もうとしている。熱心な意見交換だった。
- ・オーガニックに対する期待。
- ・交流があってよかった。
- ・オーガニック農業は労力が大変。(現実問題)
- ・色々な分野の方が興味を持っておられた。
- ・栽培研修などしてもらえたら嬉しい。
- ・ディスカッションの中で有機に対する不安や期待が聞けて良かった。
- ・座談会はテーブルごとに議論が深まっていた印象だった。
- ・土が大事だという意見を同じテーブルの人達と共有できて良かった。
- ・オーガニック農業は難しいというイメージが強かったが、昔の日本に立ち戻ればその問題はなくなるのではないか。

● 次回以降希望するテーマ・内容

- ・生産現場やスーパーなどの販売現場の現状(現場視察含む)
- ・農地取得、空き地農地の活用について。
- ・具体的な実施、活動計画、現実的な話、メリット、デメリット。
- ・生産者さんのプレゼン(想い)を聞きたい。立場ごとにプレゼン登壇者を考えてもいい。
- ・出た意見に対しての意見交流の時間がもう少しほしい。

アンケート結果

●有機農業の推進に向けて、必要な方向性や取組内容（自由記述）

- ・水稻の生産者としての視点だが、田んぼで使用する水が、夏場に使用できる日が隔日なのがかなり大変。有機農業は雑草の抑制に水管理が重要なのと、お米の品質に関しても大きく作用する。毎日(短時間でも)入水できるとありがたい。
- ・虫、草、値段、ブランド、行政の支援
- ・オーガニック農業で確実に生活していけるようになるとよい。生産者が集まってまとまった土地でオーガニックしたい。(まさにヴィレッジ)
- ・有機農業に興味のある10代が有機農業の体験をしたり、具体的な農法を学べるような場が増えると嬉しい。オーガニックのもののおいしさは一度食べるとわかると思うので、市内や県内の多くの人が食べる機会を得られる取り組みを期待している。
- ・農を楽しく体感してもらえるオーガニック体験をしてもらう。馬を使って耕すなどのイベントもしてみたい。オーガニック給食など。行政の販路支援。
- ・生産者の生の声を聞いて、それに対しての具体的な支援をしていくこと。様々なセンターの人たちと関わり合って進めていくことが大切。
- ・ESDの必要性、重要性。大人が変われば子どもも変わる。体験を通じた取り組みは持続可能な農につながる。自分にできることは何か探っていきたい。
- ・もっとカジュアルに話し合いができる場があると良い。
- ・価値観の共有も大事だが、ひっ迫した課題に取り組むという危機感を持って具体的に行動にしていけることが必要。
- ・オーガニック農業の生産者が増えるためにも行政のバックアップを進めていただきたい。

☎ 近江八幡市 総合政策部企画課

(住所) 〒523-8501 滋賀県近江八幡市桜宮町236番地

(TEL) 0748-36-5527

(E-mail) 010202@city.omihachiman.lg.jp

